

<先週の説教から>

『復活日ー私は世の終わりまで』

武田真治牧師

詩編 16:1~11 マタイ福音書 28:16~20

今日は《イースター礼拝》です。イエス様のご復活をお祝いで感謝する礼拝です。ただ、今でもそうでしょうか、イエス様が蘇られたという出来事は、当時の弟子たちにとってもなかなか信じられないことでした。復活日の朝、イエス様が葬られた墓に足を運んだのは「女性たち」であったと報告されています。12弟子は皆、失意と絶望の中におり、イエス様を見捨ててしまったという罪悪感に捕らわれていたのです。

そんな彼らが“復活を信じる”ようになったのは、イエス様ご自身が彼らに直接、出会われたからでした。「十二人の弟子たちはカリヤヤに行き、イエスが指示しておられた山に登った。そして、イエスに会い、ひれ伏した」のです。ここで初めて彼らはイエス様の復活を信じる事が出来たのでしょう。

ただ、聖書はそれでも「しかし、疑う者もいた。」と正直に認めています。直に復活のイエス様を見ても、まだ『信じられない』と思っていた者もいたと。そうであるなら、尚更、現代に住む私たちには信じにくい事柄と言い得ます。やはり、復活は証明する事柄ではなく、信じる事柄だと言い得ますね。

そんな彼らに対して、イエス様が（天に昇られる前に）託された役目が今日の聖書箇所です。即ち「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」です。

まず何より大事なことは、その「疑った者」も含めて、イエス様はこの《委託》をお願いされている点です。疑いがあるからダメだとか、他所に退けてしまおうとかでなく、いつか信じられる時が来るかだろうからと、むしろ、これらの役目を果たしていく中で復活が受け入れられるようになるからと考えておられたのではないかと思います。少なくとも“のけ者”には為さませんでした。復活への信仰は生涯を掛けるものだと！

また、ここでイエス様は「わたしの弟子に」しなさいと言わ

れています。決して、私の兄弟姉妹にしなさいとは言われていません。それは単に「洗礼を受ける」だけが目的ではなく、その後「守るように教えなさい」とあるように、その生涯を掛けてイエス様の「教え」に従っていくこと＝生涯、イエス様の「弟子として」生きることを望まれておられるということではないでしょうか。しかも、そのイエス様へと従うことは、この地上の生活だけでなく「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」という約束をも為さってくださいています。この地上の命を越えて、天のみ国にでもイエス様と《共に生きる》人生は続いて行くのだということでしょう！このことを「信じる」ことが《復活を信じる》ことなのです。

それ故、私たちは生涯を掛けて、イエス様の弟子となって行くことが大事なのだ。その意味で、私たちひとり一人が生涯『求道者』として生きて行くのです！

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 4月30日(水) 20:00
II. 5月1日(木) 10:30

聖書研究: ローマの信徒への手紙
祈祷主題: かにた婦人の村を覚えて
担当者: (水)池田 (木)齋藤
祈りに覚える人: 寺本さん 富澤さん

*ひつじ雲の会 4月28日(月) 10:00~

【教勢報告】

主日礼拝 男22 女57 計79
祈祷会 I.男4 女3 計7 II.男1 女9 計10
日曜学校 幼稚科8 小中科18 計26

【次週主日礼拝】 5月 4日(日)

聖書: イザヤ書 58:11~14
ルカによる福音書 6:6~11

説教: 「ルカ④ーその人は身を起して立った！」
武田真治牧師

讃美歌: 358(1)、32、514、470、453、
【次週当番表】 81(1~2)、83(1)

司式: 茨木長老 奏楽: 中村 礼拝: 保坂長老
配餐: 坂田 鈴木 保坂 相浦 各長老
献金: 小草 柿澤 受付: 西尾 森本
会堂準備: 浅井 阿部 齋藤 山田
看板: 保坂 週報: 岩佐 お花: 森本

【次週集会予定】

礼拝前: ・聖書輪読会 ・求道者会
礼拝後: ・長老会 ・会堂管理委員会
・お茶の会 ・牧師と語る会

週報

2025年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

2025年 4月 27日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33
TEL&FAX 048-771-6549
<http://www.ageo-church.org/>